【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第６部門第２区分
【発行日】平成27年10月15日(2015.10.15)

【公開番号】特開2014-56024(P2014-56024A)
【公開日】平成26年3月27日(2014.3.27)
【年通号数】公開・登録公報2014-016
【出願番号】特願2012-199454(P2012-199454)
【国際特許分類】
Ｇ０３Ｇ　15/08　　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｇ０３Ｇ　15/08　　１１２

【手続補正書】
【提出日】平成27年8月31日(2015.8.31)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
画像形成に用いられる現像剤を収納するための現像剤収納容器であって、
前記現像剤収納容器は、立体形状を有する第１の可撓性部材と、前記第１の可撓性部材の一部を覆うことで前記現像剤を収納する空間を形成する第２の可撓性部材とが接合されて構成され、
前記第１の可撓性部材と前記第２の可撓性部材との間には、前記現像剤収納容器に前記現像剤を注入するための注入口が設けられ、
前記立体形状の外形を構成する面のうち前記注入口に隣接する隣接面が前記注入口における現像剤の注入方向に対して９０°未満の角度を有していることを特徴とする現像剤収納容器。
【請求項２】
画像形成に用いられる現像剤を収納するための現像剤収納容器であって、
前記現像剤収納容器は、立体形状を有する第１の可撓性部材と、前記第１の可撓性部材の一部を覆うことで前記現像剤を収納する空間を形成する第２の可撓性部材とが接合されて構成され、
前記第１の可撓性部材と前記第２の可撓性部材との間には、前記現像剤収納容器に前記現像剤を注入するための注入口が設けられ、
前記立体形状の外形を構成する面のうち前記注入口に近接する近接面が前記注入口における現像剤の注入方向に対して９０°未満の角度を有していることを特徴とする現像剤収納容器。
【請求項３】
前記注入口から前記現像剤を注入した後に前記注入口を接合により封止したことを特徴とする請求項１又は請求項２に記載の現像剤収納容器。
【請求項４】
前記隣接面が前記注入口における現像剤の注入方向に対して８８°未満の角度を有していることを特徴とする請求項１又は請求項３に記載の現像剤収納容器。
【請求項５】
前記立体形状が熱成形を使用して形成されたことを特徴とする請求項１乃至請求項４のうちのいずれか一項に記載の現像剤収納容器。

【請求項６】
前記熱成形が、真空成形、圧空成形、真空圧空成形、ブロー成形、射出成形、コンプレッション成形、トランスファー成形のいずれかであることを特徴とする請求項５に記載の現像剤収納容器。
【請求項７】
前記接合が、熱溶着、レーザー溶着、超音波溶着、溶剤溶着、接着剤、接着テープのいずれかを用いて行われることを特徴とする請求項１乃至請求項６のうちのいずれか一項に記載の現像剤収納容器。
【請求項８】
前記現像剤収納容器に収納された現像剤を画像形成に用いるために前記現像剤収納容器から排出するための排出口が前記現像剤収納容器に設けられていることを特徴とする請求項３乃至請求項７のいずれか一項に記載の現像剤収納容器。
【請求項９】
像担持体に形成した像を現像剤により現像する現像装置であって、
請求項１乃至請求項８のいずれか一項に記載の現像剤収納容器と、
現像剤を担持するための現像剤担持体と、
を有することを特徴とする現像装置。
【請求項１０】
請求項１乃至請求項８のいずれか一項に記載の現像剤収納容器、請求項９に記載の現像装置のうちの少なくとも１つを有し、画像形成装置の本体に着脱可能なプロセスカートリッジ。
【請求項１１】
画像形成媒体に画像を形成する画像形成装置であって、
請求項１乃至請求項８のいずれか一項に記載の現像剤収納容器、請求項９に記載の現像装置、請求項１０に記載のプロセスカートリッジのうちの少なくとも１つと、
現像された画像を前記画像形成媒体に転写する転写手段と
を具備することを特徴とする画像形成装置。